

支える側が支えられるとき

～認知症の母が教えてくれたこと～



写真提供：長崎新聞社

ふ じ かわ こう の すけ
講師 **藤川幸之助先生**

朗読とお話

入場
無料

藤川幸之助 氏 プロフィール

■詩人・児童文学作家。日本児童文学者協会会員。

■1962年、球磨郡湯前町生まれ。長崎大学大学院教育学研究科修了。

■小学校の教師を経て、現在は認知症の母親の介護の経験をもとに、命や認知症を題材にした作品を作り続けている。また、認知症への理解を深めるため全国各地で講演活動を行い、詩の朗読を交えた講演は好評を博し講演回数は500回を超える。作品や活動は、「天声人語」などの多くの新聞やNHK ハートネット TVなどのメディアでも取り上げられている。

■「認知症をどのように子どもに伝えるか」をテーマに研究を深め、2013年より認知症ケア学会「未来を作る子どもたちの作文コンクール」の審査委員長を務める。■2023年より三井住友信託銀行主催の「わたし大賞」の選定委員を務める。■長崎市立晴海台小学校校歌作詞作曲。■著書をもとにNBC 長崎放送が制作したラジオ番組「マザー・詩人藤川幸之助が綴った母との瞬間」が平成16年度民間放送連盟賞最優秀賞受賞、文化庁芸術祭参加作品となる。著書多数（裏面参照）。

日時：令和7年3月15日（土）

会場：あさぎり町ポッポ一館 2階

（球磨郡あさぎり町免田東1482-2）

定員：100名

開場：13時30分

開演：14時00分

終演：16時00分

主催：人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村

後援：人吉市医師会、球磨郡医師会

参加申込は：球磨郡医師会内 木村（☎090-8353-8882）まで

ホームページ「だんだんあネット」
<https://www.dandanna.net/>



支える側が支えられるとき ～認知症の母が教えてくれたこと～

藤川幸之助

- ① 認知症の人を感じるということ
◎詩の朗読【本当のところ】【徘徊と笑うなかれ】【手帳】
- ② 認知症の母と言葉
◎詩の朗読【悲しみ】
- ③ 認知症の母の心
◎詩の朗読【さびしい言葉】
- ④ 認知症の母への苛立ちを吐き出すこと
◎詩の朗読【夕日を見ると】◎詩の朗読【そんな時があった】
- ⑤ 母の存在に耳をすます
◎詩の朗読【花見】 ◎詩の朗読【約束】
◎詩の朗読【旨いものを食べると】
◎詩の朗読【祈る】 ◎詩の朗読【おむつ】
◎詩の朗読【扉】
- ⑥ 絆の結び直し
◎詩の朗読【母の遺言】◎詩の朗読【こんな所】
- ⑦ 支える側が支えられるとき
◎詩の朗読【眼張る】

扉

藤川幸之助

認知症の母を
老人ホームに入れた。

認知症の老人たちの中で
静かに座って私を見つめる母が
涙の向こう側にぼんやり見えた。
私が帰ろうとすると
何も分かるはずもない母が
私の手をぎゅっとつかんだ。
そしてどこまでもどこまでも
私の後をついてきた。

*

私がホームから帰ってしまうと
私が出ていった重い扉の前に
母はぴったりとくっついて
ずっとその扉を見つめているんだと聞いた。

それでも
母を老人ホームに入れたまま
私は帰る。
母にとっては重い重い扉を
私はひょいと開けて
また今日も帰る。

『満月の夜、母を施設に置いて』（中央法規）

講演者の書籍・一覧】

●最新刊・エッセイ集『母はもう春を理解できない』（harunosora）●自選詩集『支える側が支えられ 生かされていく』（致知出版）●絵本 こどもにつたえる認知症①～⑤（クリエイツかもがわ）●『徘徊と笑うなかれ』（中央法規）●ポストカード詩集『命が命を生かす瞬間』（東本願寺出版）●詩文集『まなざしかいご 認知症の母と言葉をこえて向かいあうとき』（中央法規）●写真詩集『この手の空っぽは きみのために 空けてある』PHP 出版●『手をつないで見上げた空は』（ポプラ社）●『やわらかな まっすぐ』（PHP 出版）●『君を失って、言葉が生まれた』（ポプラ社）●絵本『大好きだよ キョちゃん。』（クリエイツかもがわ）●『ライスカレーと母と海』（ポプラ社）●『マザー』（ポプラ社）●CD 版『マザー』（ポプラ社）●『こころインデックス』（教育出版センター）等。共著に●『人間といういのちの相（すがた）4』（東本願寺出版）天童 荒太他●『私、バリバリの認知症です』（クリエイツかもがわ）●『長崎の童話』『熊本の童話』（共にリブリオ出版）など多数。